



みなさんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

盲導犬くらぶ

公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人 井上 幸彦
223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001-9
TEL.045-590-1595
FAX.045-590-1599
<https://www.moudouken.net/>

みなさんと共に育む命は
未来への贈りもの

謹賀新年



目指すのは、その人らしく生きられる社会。
そんな未来に盲導犬を届けられるよう、職員一同邁進して参ります

TOPICS!

主なできごとの中からピックアップ

設立15周年を迎えた「富士ハーネス」 盲導犬の一生に寄り添う取り組み

日 本盲導犬総合センター（富士ハーネス・静岡県富士宮市）は2021年10月に開設15周年を迎えました。富士山の西の裾野に広がる自然豊かな環境に、トレーニング棟、訓練犬棟、引退犬棟などを大らかなデザインで配置し、盲導犬の誕生から最期までをトータルにケアしています。竣工後には、すばらしい景観と機能的な建築が評価され、各種の賞を受賞しました。センター内の分娩棟では、出産を控えた母犬や生まれたばかりの子犬が過ごします。複数の母犬の同時出産や帝王切開による出産もあって多忙です。出産は年約20回、これまでの出産頭数は1,310頭にのびます。また、2021年3月に新設したケアハウスでは医療ケアが必要な犬を24時間看護、引退犬は看取りまで丁寧に対応するなど犬の



➡来館者を案内する職員。15年間で来訪者の総数は40万人に及びます

QOLを維持しています。

富士ハーネスは、盲導犬に関する情報発信地としての活動も行っています。日本で唯一の常時見学可能な盲導犬訓練施設で、普及推進活動の重要な役割を担っています。見学者に育成事業への理解と親しみをもってもらうため、盲導犬訓練のデモンストレーション（実演）は大切な場です。団体での見学申込みも多く、3,571団体121,581人の団体見学を受け入れてきました。他にもICTを活用した世界からの関連情報の収集など、さらに効果的な普及推進活動の方法を模索しています。

15周年は一つの区切りではありますが、普及推進活動、繁殖・出産の拠点、盲導犬育成、共同訓練、引退犬のケアなどの多機能を担う富士ハーネスの活動は途切れることなく続いていきます。



➡富士山の麓、広々とした施設内で犬たちの訓練を行う職員たち

日本盲導犬協会の歩み 2021.10.1~12.31

- 10月12日 第7回常任理事会
- 10月27日 第2回理事会 第2回評議員会
- 11月17日 第8回常任理事会
- 12月3日 職員による研究発表大会
- 12月14日 第9回常任理事会

↓11月21日 眼鏡のバリミキと「ロービジョン商品体験会」を開催。特別企画として盲導犬の実演も行いました



➡11月24日 北総鉄道の印西牧の原駅で講習会を開催。協会職員を講師に、駅職員向けに視覚障害者への声かけや誘導などの講習を行いました



↑11月12日 一般社団法人日本自動車販売協会連合会の盲導犬賞与式に協会の盲導犬ユーザーや仙台訓練センターの根本センター長(写真左)らが参加

第2回理事会・第2回評議員会合同会開催 SDGsに沿った2030年までの指標を発表

協 会の理事9人、評議員9人他職員が参加し、2021年10月27日、京王プラザホテル（東京都新宿区）で第2回理事会・第2回評議員会合同会が開催されました。

合同会では、2015年の国連サミットで示されたSDGs*に沿って、「盲導犬と共に生きていく」という選択肢が視覚障害者から奪われることのないよう着実に事業を継続していくこと、2030年までの「2021~2030年度中長期計画」が発表されました。2020~2023年を「withコロナ期」、2024~2025年を「代替過渡期」、2026~2030年を「充実期」とし

て3つの期に区切り、2017年の協会50周年時に提案されたコミュニティーセンター（仮称）構想の推進、事業環境整備、より実践的な訓練士養成システムの導入などが盛り込まれました。会場では理事、評議員による熱心な議論、質問や提案が交わされ、すべての人が「行ってきます！」といえる未来に大きな期待が寄せられました。

*SDGs：2015年の国連サミットでは、持続可能なよりよい世界を実現するための17の世界的な目標がSDGsとして掲げられました。到達目標は2030年です。SDGsには、視覚障害者を含めたすべての人が暮らしやすい社会を目指すことも掲げられています。

第13期島根あさひ盲導犬パピープロジェクト始動 訓練生、ボランティア、職員の三位一体で

島 根あさひ社会復帰促進センター（以下復帰促進センター）*で2021年11月8日、「第13期盲導犬パピープロジェクト委託式」が行われました。委託されたパピーは生後約4か月齢~5か月齢の計4頭で、参加する訓練生（受刑者）は25人。パピー1頭につき6~7人の班体制で取り組みます。復帰促進センターの平床センター長や多和田協会理事がプログラムの意義を述べ、訓練生にエールを送った後に、パピーが引き渡されました。緊張した面持ちだった訓練生ですが、パピーを託された後は目じりをさげ、パピーの紹介や抱き方などのレクチャーに熱心に聞き入っていました。

続いて11月13日には、島根あさひ訓練センターでボランティアを対象に「ウィークエンドパピーウォーカー委託式」が行われました。パピーたちは、金曜日の午後から週末の間は地域ボランティアであるウィークエンドパピーウォーカー（WPW）宅で過ごします。同プロジェクトを推進する復帰促

進センターのセンター長および訓練生教育プログラムを担当する民間企業SSJ社の代表取締役社長の両者が、官民それぞれのトップとして初参加した委託式でした。訓練生、WPW、協会職員の三位一体で13期プロジェクトが本格始動です。

*島根あさひ社会復帰促進センター：国と民間事業者が協働して運営する刑務所。プロジェクトは2009年の第1期開始から今年で13期目。第12期までに66頭のパピーを育てています。



↓ウィークエンドパピーウォーカー委託式の様子。式後にはリード歩行や排泄などのパピーレクチャーも実施されました。パピーを見守る1年のスタートです



↑社会復帰促進センターでの委託式に盲導犬候補のパピーを託します

●各センター活動報告(10月~12月)

(2021年12月31日現在)

		神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・視覚障害サポート	共同訓練	6回	4回	2回	2回
	パピーレクチャー	35回	7回	8回	7回
	パピーウォーキング修了式	0回	0回	0回	0回
	ユーザーフォローアップ	27回	25回	33回	14回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	18回	10回	2回	1回
	各種オンラインセミナー			7回	
リハビリテーション	短期リハビリテーション	0回	2回(7人)	0回	0回
	その他リハビリテーション	151回(89人)	177回(164人)	95回(249人)	26回(16人)
普及推進活動	見学会・団体見学	2回	1回	31回	3回
	講演・実演・募金活動・受け入れセミナー	52回	92回	25回	50回
	各種オンラインセミナー			8回	

メディア掲載件数	
テレビ・ラジオ	31回
新聞	31回
WEB	124回
その他(雑誌など)	9回

主な放送・掲載	
10月6日	秋田魁新報他1局WEB2件 NPO法人パートナーズドッグ秋田 チャリティーゴルフ開催
10月31日	中日新聞他WEB2件 西武福井店でイベント「盲導犬キャンペーン」開催
11月8日	毎日新聞他1紙WEB8件 島根県の防災訓練、協会や盲導犬ユーザーが参加
11月12日、29日	河北新報他1局WEB1件 一般社団法人日本自動車販売協会連合会 盲導犬賞与式にユーザーや協会職員が参加
11月17日	毎日新聞他WEB52件 第13期島根あさひパピープロジェクト ウィークエンドパピーウォーカー委託式開催
11月21日	NHK「視覚障害ナビラジオ」コロナ禍の盲導犬ユーザーの実態・受け入れ拒否について 協会職員やユーザーが出演
11月25日	千葉日報 北総鉄道印西牧の原駅で鉄道講習会開催
11月26日	NHKBS「身近なプロたちの脳内をのぞき見！プロの秘技拝見ドキュメント脳内実況」訓練士が訓練内容を解説
12月7日	静岡新聞他1紙WEB1件 浜松市立鶴江小学校キャラバン開催

*協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。

島根県の大規模防災訓練に盲導犬協会が初参加 ユーザーが避難所生活を体験

島根県の西部、日本海に面した浜田市で2021年10月24日に島根県総合防災訓練が実施されました。協会と島根ハーネスの会は、盲導犬を連れて避難所へ同伴できること※をわかりやすく多くの方に知ってもらうため、防災訓練の展示ブースに出展。ユーザー、盲導犬が参加し、パネル展示を交えて情報を発信しました。

展示ブースでPR活動を行ったほか、近隣の小学校に設営された避難所では、ユーザーの石田尚志さんと盲導犬のキラが訓練に参加しました。段ボールのベッドなどを備えた補助犬使用者用のスペースも設置され、避難所を運営する自治体や一般の方に「いつでも。どこでも。避難所でも一緒。」の理念を強くアピールできた防災訓練でした。島根県において、行政が実施する大規模な防災訓練に盲導犬協会が参加するのは今回が初めてです。

※身体障害者補助犬法に基づき、避難所においてもユーザーと同伴の補助犬を受け入れることや、周囲への理解周知が求められています。厚生労働省は2021年6月に「避難所等で生活する障害児者への配慮事項等について」と題する事務連絡を全国の自治体に出し、身体障害者補助犬を使用する人について「使用者と補助犬を分離せず受け入れた上で、周りの方々に補助犬に対する理解を促進する」としています。



←浜田市の長浜小学校に設営された避難所を訪れた石田さんとキラ。大きめのテントが利用でき、「犬も自分自身も安心できることを実感。盲導犬を理解してもらう良い機会にもなった」

訓練犬確保のため海外から新犬種導入 スムーズ・コリーのヨシ&ユキ

コロナ禍で出産数を抑えたことで、例年の盲導犬候補の子犬の誕生数約100頭に対して2020年度は60頭ほどにとどまりました。今後訓練犬が不足する可能性があるため、協会では海外から成犬を導入することで頭数を補うと同時に、新たな犬種を訓練することで技術向上を目指

します。候補犬として導入したのは、アメリカの盲導犬育成団体 Freedom Guide Dogsからのスムーズ・コリー成犬2頭。ヨシ(雄)とユキ(雌)と名付けられた2頭は、基本的な訓練をアメリカで受けたのち、2021年11月に日本へやってきました。



↑11月に日本へやってきたヨシ(雄/左)とユキ(雌/右)。スムーズ・コリーはスコットランド原産の牧羊犬種で、国内では珍しく飼育頭数もわずかです



た。スムーズ・コリーはアメリカでは盲導犬として実績があり、ラブラドル・レトリバーよりも少し大きめで、体格的にも適した犬種です。

協会の海外ネットワークを生かして、近々さらに他犬種の訓練犬導入も検討しています。コロナ禍でも盲導犬育成を停滞させずに事業を推進していくため、引き続き様々な選択肢を模索していきます。

←訓練に臨むヨシ担当の林訓練士(左)とユキ担当の浄光訓練士(右)。「まずは犬種の特性を理解できるような関わりを心がけています。犬と訓練士、互いに理解し合いながら適切な訓練方法を探っていきたい」

AKIBA FUCOIDAN アキバフコイダン 秋葉薬品は日本盲導犬協会を応援しています。秋葉薬品株式会社 tel.03-5577-5645 akibayakuhin.com/fucoidan/

無理なく、続けられる ナチュラループラス The Global Healthcare Company 私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。株式会社 ナチュラループラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F TEL 03-6230-3311 FAX 03-6230-3011 URL http://www.naturally-plus.com

母犬の養育行動とストレス応答の関係性が明らかに

麻布大学獣医学部と盲導犬協会の共同研究から

協会は多くの大学と連携して様々な研究事業を行っています。その一つである麻布大学獣医学部との10年以上にわたる共同研究について、このほど成果が発表され「母犬の養育行動が十分である場合、子犬はストレスに強く恐怖を感じにくい成犬に育つ」ということが明らかになりました。

研究ではコルチゾールというホルモンに注目しました。生体がストレスや恐怖を感じると尿中のコルチゾール値が上昇することから、ストレス指標の一つに挙げられているものです。ストレス応答をみるため、協会では63胎425頭の子犬を対象に5週齢と7週齢と1歳頃のタイミングで採尿、母犬21胎からも採尿したほか、個体特性把握のために行っている1歳3か月時の稟性評価結果や、母犬の産後5週目までの養育行動の映像記録も分析に用いました。

これらのデータを麻布大学で分析したところ、母犬が子犬に触れる、舐める、授乳する、遊ぶなどの養育行動を十分に行った場合は、子犬のコルチゾール値が生後5週齢時に一旦高まり、その後は数値が低下し、成長後はストレスからの回復力が高い、環境変化に順応しやすい、恐怖にも適切に対応できる、などの特徴をもつ成犬になることがわかりました。

富士ハーネス 繁殖出産の現場から

協会施設の富士ハーネスなど繁殖出産の現場では、母犬の養育行動が子犬に影響を与えることを以前から感覚的に把握しており、職員間の報告や日誌などできめ細かく情報共有しつつ実態に即した親子犬対応を行ってきました。今回の研究成果について職員たちは「現場感覚が数値として示されたのは素晴らしいこと」「現場対応の方向性が正しかったことが証明された。母犬が安心して育児できるよう一層サポートしていきたい」と語ります。

協会では、繁殖計画や稟性評価など、綿密な盲導犬育成プログラムに基づいて育成事業を進めています。今回のような研究がさらに進んで、母犬の養育行動が充分かどうかを容易に判断できる明確な数値基準が設定されれば、現場対応はさらにスムーズ



↑犬舎内で親子犬を見守る富士ハーネスの大塚春菜訓練士職員。「母犬の養育行動が足りないように見えても、無理に促すことはしていません。養育行動は大いに個体差があるうえ、出産や育児で疲れている母犬に無理強いしても改善しないからです。むしろ母犬のストレス軽減を心がけています。散歩や運動で気分転換、職員が寄り添うなど母犬がリラックスできる環境整備を重視しています」(大塚職員)

になり、育成環境の一層の改善が期待できます。協会は今後も諸機関と連携した研究事業に力を入れ、盲導犬育成環境のさらなる改善に寄与していきます。

(参考資料:2021年10月麻布大学発行プレスリリース)

研究事業を支えるのは繁殖、出産、訓練の現場 今回の研究に資するデータ収集は2008~2014年の6年間にわたり実施されました●富士ハーネスで出産を担当する職員が定期的に子犬と母犬の採尿を実施したほか、母犬の養育行動を見るため映像撮影も24時間体制で行いました●子犬の排泄タイミングがつかめず採尿をするのも一苦労●子犬が成長した後もデータ収集は続き、1歳で神奈川訓練センターに入ってから2週間にわたり採尿を実施●訓練犬の排泄時間は慌ただしく、そんな中でも犬舎職員は根気強くデータ収集を続けました●繁殖、出産、訓練など育成現場でのこうした積み重ねが協会の研究事業を支えています。

見えない、見えにくい人の困りごと 仙台訓練センターが支えます

～ひたむきに寄り添い20年、一層きめ細かなサポート体制構築へ

仙台訓練センター（仙台市青葉区）は2001年開設時から視覚リハ[※]の充実を目指してきました。半年間の入所訓練が典型的だった時代に「気軽に視覚リハを」と在宅生活訓練を開始。東北唯一の盲導犬訓練施設ですが、盲導犬の枠を超えて利用者目線の事業を次々展開し、白杖歩行指導のほか音声デジタル機器の使い方、便利な家事グッズ情報など柔軟なサポートを提供し続けています。

※視覚リハ：視覚リハビリテーションの略。見えない、見えにくい状態になっても道具を使う、身体の使い方を覚える、制度を活用するなどして再びできるようになるためのサポート

在宅リハビリ

～自宅訪問型、小さな相談から始める生活訓練

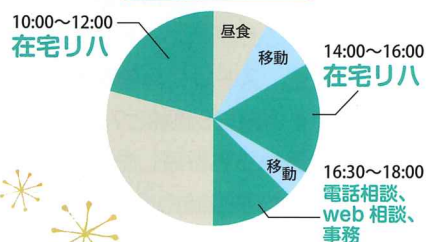
仙台訓練センターは、開設年の2001年から訪問型の在宅生活訓練（以下、在宅リハ）を始めました。仙台市との連携事業「東北あったか福祉計画」の一環です。訪問型にしたのは、対象地域が東北一帯で大変広く来所が難しいケースが多かったからです。従来の視覚リハは身体障害者手帳を持つ人だけが対象でした。国の施設へ半年もの長期間入所などハードルが高かった当時、もっと気軽に視覚リハを受けて欲

しい、身体障害者手帳がなくても受けられるサービスを、誰でも相談できる窓口を、という思いから生まれたのがこの企画でした。

在宅リハは通常1回当たりの訪問2時間を使って行います。面接で困っている内容をしっかりと聞き取り、解決に向けた歩行指導や生活指導を実施します。職員は様々な選択肢を提供しますが、どんな視覚リハを取り入れるかを決めるのは利用者本人です。生活指導は便利な調理グッズの紹介、スマホや音声パソコンの使い方指導が中心です。歩行指導で

は、壁を触りながらの伝い歩き、手引き歩行、白杖歩行を指導しています。状況や希望に合わせ、その人に合った歩行手段をアドバイスします。「大切なのは本人の希望がかなうこと。元気になってくれたらそれが一番です」(大谷視覚障害サポート部職員)

リハ職員の1日



短期視覚障害 リハビリテーション

～訓練センターで4泊5日

翌2002年には短期リハビリテーション（以下、短期リハ）を開始しています。数名から10名ぐらいの参加



ワン!ぱくっ子 サマースクール

～視覚障害児とその家族を支える

者がセンター内に宿泊して共に様々な視覚リハに触れる4泊5日のプログラムです。パソコンや調理器具や白杖などの指導を行います。センターには、自宅を想定した生活指導室があるほか、様々なサポートグッズもそろっていて日常生活の練習に適した環境が用意されています。

4泊5日は技術習得には充分とはいえませんが、視覚リハへの第一歩になります。また期間中、参加者同士が体験や気持ちを語り合う場面もあり、そうした交流を経て明るい表情で短期リハを終える人もいます。リハは4泊5日で終わりますが「利用者には困ったらいつでも連絡をくださいと伝えていますが、実際、『以前と見え方が変わってきた』と数年ぶりに電話相談を受けて歩行指導を行うケースもあります」(大谷職員)

視覚障害のある小学生とその家族が夏休みに数家族合同でキャンプを行うこの企画は、2004年から開催しています。2泊3日のキャンプでは、親が一步引いて子供を見守る環境をつくりまします。子供同士で川遊びをしたり、子供だけで買い物に行ったり。やがて子供たちは自分で考えて動くようになります。一方の親たちは視覚障害の疑似体験。目隠しでの食事や歩行で普段の子供の行動の意味をようやく理解したという声も届いています。

↑短期リハの際に“便利グッズの部屋”で調理器具の使い方を教える笹山視覚障害サポート部職員。ひと押しで10ccと15ccを使い分けられる計量ボトルを紹介、視覚障害者の動きを助ける便利グッズは、職員たち自ら街へ出て100円ショップなどで探し出し、在宅リハや短期リハで情報提供しています

近年は視覚障害児の親同士が知り合う機会が少ないのですが、キャンプでは子供たちが就寝後に親同士でゆっくり語り合います。リピーターも多く、いつ来ても楽しんでもらえるよう職員たちは毎年、知恵を絞ってプログラムを作り上げています。

医療と連携して未来へ ～増えるロービジョンの人を支える

日常生活に支障をきたすような見えにくさを抱えた状態をロービジョンといいます。メガネやコンタクトレンズを装着しても視力が0.05以上、0.3未満の状態が該当します。日本眼科医学会によると視覚障害者は推計約164万人、うち145万人がロービジョンです。ロービジョンの早い段階で視覚リハ情報を届け、様々な対応策があることを知ってもらいたいと考え、仙台訓練センターでは2002年頃から眼科医との連携事業を行っています。現在は大学病院などのロービジョン外来へ職員が定期的に出向いて、患者への視覚リハの情報提供のほか相談にも応じています。

見えない、見えにくい人が不安や困りごとを一人で抱え込むことなく解消し、安心して暮らしていけるよう、仙台訓練センターは今後も視覚リハビリテーションに一層力を注いでいきます。

仙台訓練センター 視覚リハのあゆみ

2001年～ 在宅生活訓練



歩行訓練士が自宅訪問。障害者手帳不要、費用負担なし、電話申込、1回約2時間。2020年は339人に558回実施。左はスマホの使い方を指導する菅原視覚障害サポート部職員

2004年～ ワン!ぱくっ子サマースクール



2泊3日の親子キャンプ。普段できない体験で子供たちの自立を促進。対象は小学生（障害者手帳不要）とその家族。写真は2019年第16回「ワン!ぱくっ子」に参加した小学生たち

2002年～ 医療連携



眼科のロービジョン外来で医師ら関係者と情報共有を行う大谷職員。「困っている方へ視覚リハ情報を少しでも早く届けたい。そのために医療連携をもっと広げたい」

2002年～ 短期リハ



仙台訓練センターで4泊5日。障害者手帳不要、電話連絡後に書類申込と抽選。1回3～5人参加で年3～4回、計70回開催。写真は杖の選定や歩行技術を教える白杖歩行指導の様子

“ワン!ぱくっ子”生が中学教師に

～2008年夏キャンプから2021年春の歩行訓練まで



↑海を背景に立つ汐里さん。2021年春から仙台市立台原中学校で大好きな英語を生徒たちに教えています。白杖で電車通勤する毎日です

“ワン!ぱくっ子”卒業生の小椋汐里さんが、2021年度、仙台で中学校の先生になりました。汐里さんは協会に縁が深く、小学4～6年までキャンプに参加、在宅リハも経験しました。その後も18歳で大学の寮生活を始める時、20歳でキャンパスを移る時、21歳で福島の実家からの新幹線通学を始める時、今年22歳で仙台で教員生活を始める時、と節目ごとに協会の白杖歩行訓練を利用してきた汐里さん。キャンプで一緒だった笹山職員は「ずっと関わってきた協会だからこそ、環境が変わる大変なときに安心して頼ってくれたように思います」。成長した“ワン!ぱくっ子”たちに信頼し続けてもらえるよう、協会も歩み続けます。



←2008年“ワン!ぱくっ子”サマースクールの参加児童たち。七夕飾りとともに、左から2番目が汐里さんで小4の時です

スタートライン

Start Line

みなさんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2021年12月までの共同訓練卒業生



- 各ユーザーの紹介項目
- ユーザー名・在住地(盲導犬歴)
 - 盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種
 - ①共同訓練期間
 - ②パピーウォーカー名
- 犬種記号
- LR: ラブラドル・レトリバー
 - GR: ゴールデン・レトリバー

神奈川訓練センター

3頭目カエデは「ラテン系お姫様」それぞれの個性を楽しんでいます

山本 誠さん
東京都練馬区 (3頭目)
カエデ (♀)LR
①2021.10.4~10.15
②倉田 博美さん

共同訓練は「カエデのことを知る2週間だった」と山本さんは振り返ります。訓練士にあらかじめカエデの性格や得意なことなどを教えてもらってから向き合

ました。今までの訓練と比べて一番大きな違いは、遊びを大きく取り入れたことです。お気に入りにはボールを使った遊び。「私のキャラクターと一緒に遊ぶ楽しさを知ってほしい」とコミュニケーションを図り、カエデのモチベーションを少しずつ高めました。

犬の個性を伸ばす訓練でカエデとの関係が密になり、広い視野で接することができるようになりました。犬のにおい嗅ぎ一つをとっても毎回「NO」を言うのではなく、ユーザー側が行動に少し工夫を加えます。におい嗅ぎをする場所がわかっているならば、違う道を選んでみたり、早く歩いてみたり……。山本さんは「におい嗅ぎができるのは犬に余裕があるから。人が携帯を見ながら歩くのと同じ」と例えました。

原因を一つに絞らず、広い視野で別のアプローチをしてみる。犬に考えさせつつも、人と歩くのが楽しいと思ってもらえるようにするのがコツのようです。「うまくいかないところはちょっとずつ変えていけばいい。大事なのはパートナーの個性を生かしつつ、ユーザーが工夫してあげることかな」。

訓練を終えて3か月、山本さんの生活スタイルにカエデも慣れてきました。メリハリをつけるため、仕事後にはご褒美代わりに1時間ほどボール遊びをします。「身体能力が高い『姫』は体を動かすことが大好きなので」。最近は投げたボールをダクシュートのように籠へ入れたりしています。

山本さんは旅行が好きで、新型コロナウイルスの流行前はよくハワイへ。2頭目のドロワは水が嫌いで波がくると逃げていましたが、カエデはどんな反応をするのか楽しみにしています。「たくさんの思い出を作り、出会った当初の明るく楽しいカエデが変わらぬまま、最後は協会へ返したい」。山本さんの目標です。

↓カエデはわかりやすい性格で、うれしいときはサンパのように体をくねらせて喜びを表現するので、一緒にいる山本さんも楽しい気分



前回のハワイ旅行は2頭目ドロワの誕生日のときに。「カエデとも何か特別なときに行きたい」。忙しい合間に行く旅行は山本さんにとってとても褒美です

平日は仕事で電車通勤、日本盲導犬協会ユーザーの会や全国盲導犬使用者の会の会長なども務めて日々アクティブに過ごしている山本さん。カエデは欠かせない存在です。山本さんには1頭目と途中で別れた悔いがあり、2頭目のドロワとはハッピーリタイアを目指して8年一緒に歩きました。「卒業の日」には感謝の気持ちを込めて金メダルをかけてあげました。

カエデは2頭目とは性格が180度違って、とても驚いたといえます。2頭目ドロワが「真面目な優等生のお嬢様」とすると、カエデは初めてのことも臆さず楽しめる「陽気なラテン系お姫様」。初対面でうれしそうに飛びついてくるカエデの姿を見てイメージしたそうです。

人生で一番小さい子を預かりました。ホリーはよく寝る甘えん坊さん。どこに行っても小さくてかわいいと言われ、私も「かわいい」いただきましたとよく返します。4頭目で慣れているつもりでも、やはり、みんな向き不向きがあって、それが楽しいと感じるのが後半2年ぐらいいですね。わずかな時間でやりたいことに挑戦してホリーと歩いていきます。寝るのもどこに行くのも一緒に毎日冒険です。さあ今日も新しい風を……



山口 佳信さん
東京都足立区 (4頭目)
ホリー (♀) LR
①2021.9.20~10.2
②望月 光義さん



仙台訓練センター

3頭目ともなると、一頭一頭それぞれ性格が違い、あらためてどの子も素晴らしいと思います。職場では、私がそばを離れると視界から消えて不安なのか、ディアナはほふく前進して私の姿を確認します。確認できたら元の位置へ。動きに幼さがあるのもかわいいと皆の人気者です。秋には初めて一緒に新幹線に乗りました。暖かくなった頃、家族やユーザー仲間と行く旅行も今から楽しみです。



佐藤 光子さん
秋田市 (3頭目)
ディアナ (♀)LR
①2021.10.18 ~ 10.29
②甲田 健さん



関東 伸雄さん
横浜市 (4頭目)
スワニー (♀)LR
①2021.10.24~11.4
②大仁田 加代子さん

マイペースな性格で、ゆったりと歩くスワニー。「早く歩こうよ」と誘うと少し早足になるけど、気がつくとスワニーのペースに。また、シャイな一面もあるようで小学校を訪問したときには児童にお尻を向けてしまったことも。けれど家では私や家族にベッタリと甘えて色々な顔を見せてくれます。まだ歩き始めて間もないので、これから少しずつスワニーと気持ちを合わせて、色々なところに一緒に出かけていきたいと思います。

浅野 千鶴子さん
新潟県西蒲原郡 (2頭目)
エトワ (♀)LR
①2021.9.6~9.17
②齋藤 浩美さん

エトワは甘え上手な女の子。主人も息子もメロメロで、エトワに添い寝していることもしばしばです。一步外に出ると、エトワの歩き方は慎重で物覚えがとても良く、一度行った場所は忘れません。先日、よく行く店に初めての道順で行って見たら、店の位置関係がわかっているようで感心しました。エトワと初めて迎える冬、雪道もきつうまく歩いてくれるだろうと楽しみです。



仙台訓練センター



上杉 健一さん
 岩手県一関市 (2頭目)
ペイジ (♀) LR
 ① 2021.9.20 ~ 10.4
 ② 松山 毅士さん

ペイジはいつも明るく表現豊かな子です。指示への反応が早く、褒めると尻尾をふりふり。家では食後の歯磨きが恒例で、毎食後は決まって自ら私の膝の上に顔をのせてきます。病院や温泉旅館などでも大人しく待つことができるので、よく褒められます。視覚障害のことや、盲導犬と一緒にあれば安全に歩けることを多くの方に知ってもらうために、これからもペイジと岩手県内での盲導犬普及活動をしていきたいです。

佐藤 智江子さん
 青森市 (5頭目)
グミ (♀) LR
 ① 2021.11.8 ~ 11.19
 ② 大仁田 加代子さん



共同訓練では、ハーネスの揺れや傾きなどから犬の動きを感じ取れず道に迷うことがあり、基本の大切さを改めて実感しました。グミは落ち着きがある良い子で、人懐っこく家族ともすっかり仲良し。グミにとって私は2人目のユーザーです。前ユーザーとの経験があったからこそ今がある、巡り会えたことに感謝です。グミに合わせて私自身も成長できるよう、気持ち新たに歩いていきたいです。

ヴェルディは2頭目の盲導犬。近所の方々やよく食事に出かけるラーメン屋など行く先々で「ワンちゃん変わったんですね」と言われ、いつもみなさんに見守られているんだなあ実感します。毎日のように行くコンビニの店員さんからは「馴染んできましたねえ」なんて訓練士さんのような言葉をいただきました。今は家にいる時間が多いですが、これからヴェルディというんなところへ出かけられたらいいなと思っています。



佐藤 修さん
 宮城県黒川郡 (2頭目)
ヴェルディ (♂) LR
 ① 2021.9.27 ~ 10.11
 ② 若井 勝廣さん

富士ハーネス

オトハは家の中ではひっくり返り、よくお腹を出してじゃれてきます。自宅周辺は歩道がない道も多いですが、ぴったりと左に寄って安全に誘導してくれます。散歩中、農作業をしている手を止めて、ときには車を停車して話しかけてくれる方もいます。地域の方々に見守られて安心して歩いています。これから姪っ子の結婚式へオトハと一緒に出席するのが楽しみです。コロナが収束したら、旅行も行ってみたいです。



小林 波留夫さん
 山梨県南巨摩郡 (2頭目)
オトハ (♀) LR
 ① 2021.9.27 ~ 10.15
 ② 佐藤 良三さん

島根あさひ訓練センター

1頭目のキララと 過ごした日々から生まれた クベルとの信頼関係

石田さんは21歳頃から見えづらさを感じていました。医師として働けなかつた中で、網膜色素変性症と診断され、2013年の退職を機に白杖歩行を習い始めました。自宅周辺は畑や田んぼ、曲がりくねった道が多く、迷ってしまうことが多々ありました。14年、初めて盲導犬歩行を体験。白杖と比べて歩くスピードが速く、風をきいて歩く感覚があり「こういう犬だったら歩ける。盲導犬は自分にとって役立つ存在になる」と、体験会場で貸与の申し込みをしました。

15年夏、1頭目のキララとの生活がスタート。旅行好きな石田さんは、キララとさまざまな場所へ出かけ、退職後の生活を一緒に楽しみました。道に迷うなどたくさんの失敗を経験しましたが、キララとの思い出は尽きないといえます。

2頭目クベルとの共同訓練では、キララとの歩行でハーネスから犬の動きを「感じ取る力が鍛えられていた」おかげで、クベルの動きも読み取ることができたと振り返ります。クベルの動きがわかると意思疎通ができ、クベルも

信頼して「やるじゃん」と言っているようでした。基本訓練では、広い訓練室の端にクベルを待機させ、反対の端にいる

石田さんが「カム」と言うと、途中で訓練士が用意した障害物を避け、石田さんの元に来てくれました。どんな状態でも「カム」と呼べば来てくれるクベルに絆を感じ、安心感をもちながら歩行できるといいます。

石田さんは起床後、振動照度計で天候をチェックし、犬の排泄など出かける準備をします。明るくなったのを確認して6時半頃からクベルと散歩に行きます。7時半には「おはよう挨拶スポット」へ。約4年前から、小学校の通学路に立って子どもたちへの声かけ運動を行っています。盲導犬普及の一環とも捉え、クベルと毎朝同じ場所で「おはよう」「いってらっしゃい」と声かけをしています。当初寡黙だった子どもたちも、今では元気に挨拶をしてくれるように。車の中から「おはようございます」と声をかけられたり、道すがら高校生から「おっす！」と挨拶されることもあり、地域

石田 尚志さん
 松江市 (2頭目)
クベル (♂) LR
 ① 2021.10.25 ~ 11.9
 ② 立岩 大地さん



共同訓練では、心の距離を縮めるために積極的にクベルの身体にぴったり寄り添う一方で、「信頼を得よう」と毅然とした態度で臨み、存在を印象づけるよう心がけました

の一員となっている実感があるといえます。石田さんは「助けてもらうのではなく、こちらも助ける、相互に支えていくことが大切だ」と語ります。日頃から発電機や食料などを備え、災害時には地域の方々を支え合える環境をつくっています。

石田さんは、まつえ市民大学の成人教室で松江市の歴史などを学んでいます。キララと受講していたこの講座に、現在はクベルと通っています。さまざまな施設へ見学に行くこともあり「自分の知識習得だけでなく“どんな場所でも盲導犬と一緒に歩ける、参加できる”ことを証明して、盲導犬の普及活動にもつなげたい」と語ります。



朝の声かけ運動がきっかけで、道に迷い困っていると車を停めて助けてくれたり、1頭目の引退のときにはキララの紙粘土像や感謝の手紙をもらうなど、すっかり地域での存在感が増した石田さんです



株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆様の善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ
<http://www.intage.co.jp/>

キューモニター募集
<https://www.cue-monitor.jp/>

盲導犬育成を支える
**ボランティア
LIFE**

**初めての飼育ボランティア
家族みんなで楽しんでいます**

島根あさひ訓練センター PR犬飼育ボランティア ● 清水洋子さん一家 ● (広島市)



↑左からジュピターに寄り添う清水洋子さん、母の大藤純子さん、息子の真央くん、父の大藤和之さん。ジュピターがPR活動で1泊2日会えないと「寂しくて仕方ないです。保護者のように「今、何しているんだろう」と考えてしまいます」

清 水洋子さんは、2021年2月からPR犬ジュピターの飼育ボランティアとして活動しています。ゴールデン・レトリバーなどの大型犬と暮らした経験がありましたが、ボランティアは初めての挑戦。10年ほど前、イベントで盲導犬を見かけて親しみを持ち、会場のそごう百貨店が父親の勤め先だった縁もあって、キャリアチェンジ犬飼育ボランティアの申し込みをしました。

協 会から依頼を受け、いざボランティアとしてジュピターとの生活が決まると、楽しみで仕方ない気持ちと、本当に自分がお世話できるのか不安な気持ちも。迎えた初対面の日、自分の場所はここだと言わんばかりにジュピターは洋子さんのそばに歩み寄ってきました。感激の一瞬でした。「今では母がご飯の準備や朝の散歩やグルーミング、父は夕方の散歩、私ที่บ้านにいる時はずっとジュピターと一緒に過ごし、甘やかし担当は主人。息子は良き遊び相手と自然と役割分担ができました。

家族みんなジュピターに何かしてあげたいようで」と洋子さん。

ジ ュピターとの生活が始まり、苦勞したのは指示語です。盲導犬に指示を出す際に使用する言葉で、指示語の「カム」ではない「おいで」や「来て」などがつい出てしまうのです。「まずは自分たちがジュピターにきちんと指示が出せるように」と冷蔵庫に指示語を貼って家族全員で一生懸命に覚えめました。散歩のときは人間が主体で歩くよう意識して、ジュピターがPR犬として歩行を維持できるように心がけました。最初のうちは一つも間違っではいけない気が

して常に緊張していたといいます。でも「ジュピターのほうは慣れたもので「どうしたの? そんなに緊張しなくて良いよ」と言うかのよう

に余裕で歩いていて。ジュピターに救われました」。協会のボランティア向けレクチャー会にも参加。訓練士からのアドバイスやボランティア同士の交流で意識し過ぎていた自分に気付かされ、緊張がほぐれました。

一 方で、当初のジュピターは、PR活動の会場へ連れていったときに落ち着かないことがありました。そこで、ジュピターが気持ちを切り替えやすいよう、PR犬として活動する日は職員が清水さん宅までジュピターを迎えに行くようにしたところ、効果きめん。会場でハーネスを付けると見事にお仕事モードになったジュピターの表情を見て感激したといいます。

洋 子さんの緊張がほぐれた頃から、ジュピターは洋子さんに身体を密着させて、すっかりくつろぐように。「そこから本当の家族になれた気がします」と洋子さん。「これからも家族みんなで思いっきりかわいらります」



←広島市街地で、「いろいろな所へ連れていきたい。特に広島市の四季を見せたい」と洋子さん



→洋子さんとくつろぐジュピター。家にいるときはぴったりと身体をくっつけて一緒に過ごしています

心がふれあう
Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介し

飲食店へ情報を届けたい!
～宮城県食品衛生協会との取り組み～



←講習会で配布されたステッカーを手にする石巻地区食品衛生責任者実務講習会にて

2019年から始めたこの取り組みは、現在では宮城県内8地区の食品衛生協会で行われ、各地の飲食店に盲導犬への理解が広がり続けています。

● **さらなる理解促進**

2021年11月には、宮城県食品衛生協会の「食品衛生指導員大会」で、県内の食品衛生指導員や食品衛生関係団体へ向けに講演する機会を得ました。「盲導犬ユーザーが安心してお店を利用できるように、盲導犬や視覚障害についてもっと理解を深めよう」と衛生協会が企画したものです。参加者からは「まだユーザーが来店したことはないが、いつ来ていただいても快適に食事を楽しんでもらえるよう、従業員にも周知していきたい」などの声が届き、着実に理解が広がっているのを実感します。

県内に何万とある飲食店。情報を届けることができたのはごく一部です。さらなる理解促進のために、宮城県食品衛生協会との取り組みはこれからも続きます。

↓宮城県食品衛生指導員大会で講演する盲導犬協会職員。盲導犬の役割や視覚障害のある来店者への接客方法を説明しました



● **飲食店が高い障壁に**

協会では、毎年、盲導犬ユーザーへのアンケートで、盲導犬同伴での受け入れ拒否の発生状況を調査しています。2021年3月に発表された調査では、コロナ禍で外出頻度が少なくなったにも関わらず、なお多くの盲導犬ユーザーが拒否を経験していることがわかりました。拒否が起きた場所でもっとも多いのは「飲食店」。生活に欠かせない「衣・食・住」の「食」が、毎年、高い障壁となっています。飲食店の方々へ盲導犬に関する正しい情報を届けたい!そこで、スマイルワン仙台が相談したのが、宮城県食品衛生協会でした。

● **見る・知ることが
安心につながる**

宮城県食品衛生協会は、食品衛生に関する講習会を定期的に開催しています。講習会の参加者は飲食店など食品を取り扱う県内のお店の責任

者です。2年ほど前にこの講習会への盲導犬訪問を打診したところ、前向きな返事をいただき、講習会の一つ「食品衛生責任者実務講習会」へ盲導犬協会職員とPR犬が訪問する取り組みが始まりました。現事務局長の小原さんは「飲食店の責任者でも盲導犬を見たことがない人はたくさんいるので、(訪問は)盲導犬への正しい接し方を知る良い機会になる」と語ります。

参加者には盲導犬ユーザー来店時の対応方法をまとめた資料や、お店の入口に掲示できるステッカーなどを配布します。講習会では、飲食店の方々へ盲導犬ユーザーを安心して受け入れられるよう、職員が身体障害者補助犬法や盲導犬の衛生面・行動面の管理について説明をしました。職員の足元で静かに待機するPR犬の様子を見た参加者の表情には、不安の色は見られませんでした。



「わんコイン貯金箱」お届けしました!

昨秋、協会発の新企画ペーパークラフト製「わんコイン貯金箱」をお届けしました。盲導犬の愛らしい姿をプリントしたこの貯金箱には、10年にわたり温めてきた支援者のみなさまへの思いが込められています。

2021年10月、日頃より個人で協会をご支援くださっているみなさまへ『盲導犬くらぶ』104号に同封してペーパークラフト「わんコイン貯金箱」をお送りしました。ここ1～2年、コロナ禍で盲導犬と職員による街頭募金などの活動ができず(※)、直接お会いする機会が減っていましたが、みなさまの支援のおかげで盲導犬たちは元気に育ち、活動しています。なかなかお会いできないなか、今回ペーパークラフトで盲導犬

の姿をお届けしました。組み立ててお家の中で日々かわいがっていただければ幸いです。

「わんコイン貯金箱」は10年ほど前から協会内で温めていた企画でした。職員の間で、いつも温かく見守ってくださるみなさまへの感謝の気持ちを形にしたい、日々の生活のなかで盲導犬を身近に感じて欲しい、かわいらしい犬の姿を写真などでお届けして親しみをもっていたきたい、という声が上がっていたのです。十分な準備期間を経て、「わんコイン貯金箱」が誕生しました。

貯金箱の名称「わんコイン」は、犬をイメージする「わん」と支援を意味する「コイン」をつないだものです。企画担当職員の発案で「ご家庭で親しんでもらいやすいの



↑「募金で受け取るのは支援者の思い。見えない、見えにくい方への応援の気持ちがありたい。募金で結ばれた小さな絆が大きな支援につながります」と語る東京事務所渉外部の横江職員。「盲導犬を身近に感じてもらい、店舗での盲導犬受け入れ改善につながるとことも期待しています」

では」とすぐに決まりました。みなさまの元へお届けして2か月。お子さんが喜んでいるなどお便りのほか貯金箱でのご寄付も。

支援者のみなさまと、盲導犬や目の見えない、見えにくい方をつなぐシンボルとして、お手元に置いていただければ幸いです。

※ 協会の盲導犬育成事業は9割以上が寄付や募金で成り立っています。近年の団体募金は2019年度の475回開催に対し、2020年度は76回のみ。20年度に集まった募金は、19年度の約10分の1でした。



↑10月に会報誌と一緒にお届けした「わんコイン貯金箱」とお便り(上)。同じ頃、富士ハーネスでもオリジナルカードを添えて希望者などへ配布を始めました(右)。現在は仙台、神奈川、富士、島根の各センターで貯金箱を配布しています

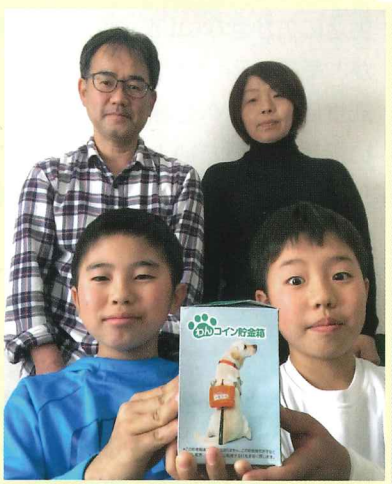


「わんコイン貯金箱」を持って富士ハーネスへ来館した黒田さん一家

「わんコイン貯金箱」には数字が書かれていて、その番号に沿って組み立てることができます。息子の和希くん(12歳/左)や大翔くん(10歳/右)も簡単に組み立てられて良かったと言います。

2年前、母親の貴子さんはラジオで盲導犬のボランティアについて知りました。子どもたちに話したところ、当時和希くんが学校の授業で盲導犬について勉強していたこともあり「もっと盲導犬のことを知りたい」と家族で富士ハーネスを訪れました。デモンストラクション(実演)を見て、盲導犬の素晴らしさを知り「何かお手伝いできるのであれば」とキャリアチェンジ犬飼育ボランティアに登録しました。

2度目の来館となった今回、「書籍『盲導犬クイールの一生』(文藝春秋)を読み、盲導犬の育成には資金がかかるのと知りました。そんなとき、協会から貯金箱が届いたのです」。家族みんなで少しずつお金を貯め、昨年10月に富士ハーネスへ持ってきてくれました。



生まれました

2021.12 | 1 誕生

オス3頭
父犬グリン(北海道盲)(LR)×
母犬グリ(LR)



オス4頭
メス4頭
父犬ルパーブ(LR)×
母犬サラ(LR)



オス1頭
メス1頭
父犬ヴィンス(LR)×
母犬ウバ(LR)

2021.12 | 6 誕生

オス2頭
メス5頭
父犬トーマス(LR)×
母犬ウェルシー(LR)



2021.11 | 23 誕生



2021.11 | 2 誕生

オス2頭
メス3頭
父犬トーマス(LR)×
母犬ヴィセ(LR)



2021.9 | 29 誕生



オス4頭
メス2頭
父犬カーロ(LR)×
母犬ユラ(LR)

みなさんに支えられて

9月11日～12月10日

犬種記号
LR/ラブラドル・レトリバー
GR/ゴールデン・レトリバー

引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
フォード♂	小嶋 鈴子さん	中田 淳子さん	2021/9/13
ノック♂	鹿嶋 明さん	杉田 久記さん	2021/9/15
チェロ♀	山口 佳信さん	神作 千鶴子さん	2021/9/20
オリン♂	上杉 健一さん	高橋 雄司さん	2021/9/20
デューク♂	佐藤 修さん	藤原 敏明さん	2021/9/27
ガーナ♀	小林 波留夫さん	渡辺 拓さん	2021/9/27
ロック♂	高橋 博さん	渡邊 百子さん	2021/10/2
ドロワ♀	山本 誠さん	生田 淳子さん	2021/10/4
フローラ♀	佐藤 夏江さん	上田 潤司さん	2021/10/11
アッシュ♀	佐藤 光子さん	-	2021/10/18
キララ♀	石田 尚志さん	上田 浩司さん	2021/10/24
モミジ♀	愛沢 法子さん	調整中	2021/11/8
ベティー♀	佐藤 智江子さん	高橋 恵津子さん	2021/11/8

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
アイビス♂	吉野 京子さん	寺田 憲治さん	2021/9/17
シータ♀	岩谷 久美子さん	後藤 秀行さん	2021/9/19
ビルポ♂	北澤 とも江さん	秋場 みなみさん	2021/9/23
ユリー♀	望月 精二さん	木村 育美さん	2021/10/8
ピンキー♀	押野 まゆさん	磯辺 隆三さん 山崎 和子さん 金子 孝子さん	2021/10/12
ミルク♀	関東 伸雄さん	西方 一枝さん	2021/11/16
ポーチ♀	穂川 美奈子さん	昆野 孝男さん	2021/11/27
ティガ♂	安達 明香さん	長 美代子さん	2021/12/5

委託しました

父犬	母犬	犬名	ユーザー名
父犬ドミノ(GR) × 母犬ロザンナ(GR)	ゲイン♂	石川 かおりさん	
父犬ドミノ(GR) × 母犬ロザンナ(GR)	グローリー♂	藤原 雄一さん	
父犬ドミノ(GR) × 母犬ロザンナ(GR)	ジェム♂	酒井 沙織さん	
父犬ドミノ(GR) × 母犬ロザンナ(GR)	グリッター♂	喜多 由紀子さん	
父犬ドミノ(GR) × 母犬ロザンナ(GR)	ガイ♂	川谷 尚美さん	
父犬ドミノ(GR) × 母犬ロザンナ(GR)	ハミング♀	柴田 俊英さん	
父犬ドミノ(GR) × 母犬ロザンナ(GR)	ハーティー♂	稲田 定博さん	
父犬ドミノ(GR) × 母犬ロザンナ(GR)	ハープ♀	大波 龍司さん	
父犬ドミノ(GR) × 母犬ロザンナ(GR)	ハッシュ♂	長尾 浩史さん	
父犬ドミノ(GR) × 母犬ロザンナ(GR)	ハク♂	鈴木 宏友さん	
父犬ドミノ(GR) × 母犬ロザンナ(GR)	ハッチ♂	佐藤 昭平さん	
父犬デクスター(GR) × 母犬バーニー(GR)	ファボ♂	角田 厚子さん	
父犬デクスター(GR) × 母犬バーニー(GR)	フレッド♂	安住 陽一さん	
父犬デクスター(GR) × 母犬バーニー(GR)	フルート♂	雁部 隆之さん	
父犬デクスター(GR) × 母犬バーニー(GR)	フレディ♂	鈴木 浩氏さん	
父犬デクスター(GR) × 母犬バーニー(GR)	フェアリー♀	宮坂 輝幸さん	
父犬デクスター(GR) × 母犬バーニー(GR)	ファンタ♂	四宮 真奈美さん	
父犬デクスター(GR) × 母犬バーニー(GR)	フィガロ♂	小林 奈都子さん	
父犬グリン(北海道盲)(LR) × 母犬ジーニー(北海道盲)(LR)	エルガー♂	野上 久美子さん	
父犬グリン(北海道盲)(LR) × 母犬ジーニー(北海道盲)(LR)	エヴァン♂	洞 幸司さん	

盲導犬育成状況

合計頭数...711頭(2021年12月22日現在)

委託前パピー	25頭	繁殖犬	48頭
パピー	72頭	PR犬	22頭
訓練犬	63頭	引退犬	171頭
盲導犬	251頭	繁殖引退犬	59頭

みなさんからいただいた「声」を紹介する

ハーネスひろば



協会のご支援者や
ボランティアの方から
届いたメッセージを紹介します

104号のボランティアLIFEを読んで、とても心が動かされました。パピーウォーカーで預かったウェブを引退犬として再び迎えた中島さん御一家。本当に素晴らしいことだと思いました。娘さんたちも一生懸命ウェブと関わったのでしょう。その様子をご家族の笑顔写真からもよくわかりました。我が家のキャリアチェンジ犬のアイボは2020年11月に大病をし、一時は心配しました。しかし、現在は奇跡的に回復。元気を取り戻し、散歩まで行けるようになりました。アイボの生命力を信じて、中島さん御一家のように、毎日穏やかに過ごしたいです。命のリレー、まさに本当ですね。犬と関わることで、学ぶことが多い毎日です。感動的な記事をありがとうございました。 **山梨県韮崎市 小沢由美さんより**

初めてメッセージを送らせて頂きます。昨年10月に父が亡くなりました。自分のことを多く語らない父が闘病する前に「引退した盲導犬が再びパピーウォーカーの家に戻って対面した瞬間の映像を見て、涙が止まらなかったよ」と感極まりながら話していました。その少し前に私が盲導犬の支援を始めたので、父と盲導犬について語った思い出があります。父のあの時の感情を胸に、これからも支援をさせて頂きます。願わくばパピーウォーカーをやるのが夢です。6歳の息子がわんコイン貯金箱に募金をするというので、いつか息子と富士ハーネスへ貯金箱を持っていくことが今の目標です。父もきっとそんな孫の姿を天国から見て、喜んでくれるのではと思っています。 **千葉県 Y.Tさんより**

前号の表紙がイラストで「あら？」と思いましたが、いつもの写真と趣が変わって良かったです。貯金箱もありがとうございました。早速組み立てました。貯まったらまた寄付させていただきます。コロナ禍で大変だと思っていますが、陰ながら応援しています。

香川県高松市 三村裕子さんより

以前から「街中などで障害のある方を見かけ“手助けしたい”という気持ちはあるものの、なかなか勇気が出ない」と友人、知人から聞きます。私が長年勤めていた職場には色々な障害のある方がたくさん働いていました。私はたまたま子供の頃から障害のある方との接点が多かったので職場でも仲が良く、周りからは「なんでそんな風に接することができるのか」とよく聞かれました。車椅子使用者の友人いわく、一番声をかけられる言葉は「大丈夫？」で、そう言われたら「大丈夫です」と答えてしまうそうです。あ～確かにと思いました。そこで私はいつも「手伝う？」とか「何をやればいい？」と必ず答えがあるような聞き方をするよう心がけていました。今まで障害のある方と全く接点なく生活してきた方は、どうしたらいいのかわからないと思います。それでも勇気をもって「お手伝いしましょうか？」と声をかけることが大切だと感じます。前号の表紙のイラストはとてもわかりやすく、多くの方々にも広く知って欲しいです。

東京都江戸川区 こじこさんより

編集室より

●『盲導犬くらぶ』の感想やご意見、盲導犬との出会いやエピソードなどを盲導犬くらぶ編集室までぜひお寄せください。1通1通のお便りが私たちの大きな励みとなります。

●あて先 公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267 e-mail: info@moudouken.net

AD 一般社団法人日本自動車販売協会連合会
JAPAN AUTOMOBILE DEALERS ASSOCIATION

自販連では、公益信託自販連盲導犬育成基金を設立し、全国の目の不自由な方々に、盲導犬貸与の助成事業を行っております。



〒105-8530 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館15階
TEL : 03-5733-3105

マンガで分かる
盲導犬の一生

わかさ生活。

**盲導犬
ペリ**

全3巻

盲導犬ペリー 検索

わかさ生活は盲導犬の育成を応援しています。